

及びその化学的特性などを積極的に取り入れた独自の研究を進めてきたことで良く知られている。

同氏は広く国内各地で苔類の調査を行い、資料を収集し国外でもマラヤ、セイロン、パプア・ニューギニアの現地調査を実施し、最近では南米アンデス地域の隠花植物調査の隊長として3回にわたって調査を実施した。このように同氏の研究活動は国内だけにとどまらず、広く国外に及ぶものであった。こうした調査研究の結果発表された論文は、昭和29年に発表された最初の論文以来350編を超えるといわれ、実に年平均10編を超える驚異的なものであった。さらにこのほかに「日本産苔類図鑑」(昭和48年)、「純・日本産苔類図鑑」(昭和58年)、「The genus *Plagiochila* (Dum.) Dum. in Southeast Asia」(昭和59年)等の専門書、並びに一般向けの多数の単行本の著作があった。この間、同氏は国内並びに国際学会でも指導的な役割を果たしてきた。すなわち、国内では「日本蘚苔類学会」の評議員、幹事、「日本植物学会」の評議員を歴任し、国際的には「国際植物命名規約委員会委員」、「国際蘚苔類学会会長」、「国際植物分類学会評議員」を歴任した。特に、昭和38年の国際蘚苔類学会東京大会の大会委員長として大会を盛会裡に運営した功績は大きい。

国立科学博物館では昭和56年から植物第二研究室長、昭和58年10月から植物研究部長の要職にあって、研究活動の推進、教育普及活動の充実、強化にあたってきたことは多大の評価を得ているところである。同氏の就任前には笹岡コレクション、小泉秀雄コレクション等数千点しかなかった国立科学博物館の蘚苔類コレクションは今や10万点を超え、世界における主要な標本庫に発展したことは、同氏が残された偉大な遺産であることを強調しておきたい。

余りにも早い突然の逝去は、同氏自身にとっても、ご家族にとっても、いかに無念なことであったか、お察しするばかりである。

(国立科学博物館 黒川 道)

---

□ Van Der Walt, J. J. A. et al.: **Pelargoniums of Southern Africa Vol. 3** 149pp. 1988. National Botanic Gardens Kirstenbosch. ¥9,100. 本書の1巻は1977であり、これが最終巻となる。*Pelargonium* は近東とアフリカ南東南部、豪州南岸を主体に分布していて、われわれの海外調査ではほとんど関係することはないが、園芸植物としては広く栽培され、しばしば目にする植物である。本書はそのモノグラフで、1種ごとに学名の出典、タイプの所在、記相、産状、分布図がつけられ、Ward-Hilhorst E. の頁大の写生図を伴っている。図は花部器官の拡大図までで、解剖図はないがとても美しい。大きな文字を使い、ぜいたくな感じである。(金井弘夫)